

# 持続可能なアジアに向けた大学における環境人材育成ビジョン(案) (概要)

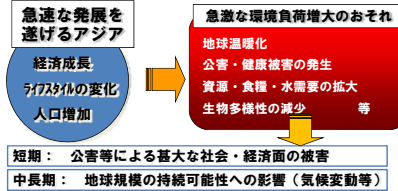
参考3

## 1. 環境人材ビジョン： 持続可能なアジアの実現に必要な不可欠な次世代型人材像

### 環境人材

自己の体験や倫理観を基盤とし、環境問題の重要性・緊急性について自ら考え、各人の専門性を活かしたキャリア、市民活動等を通じて、持続可能な社会づくりに取り組む人材。

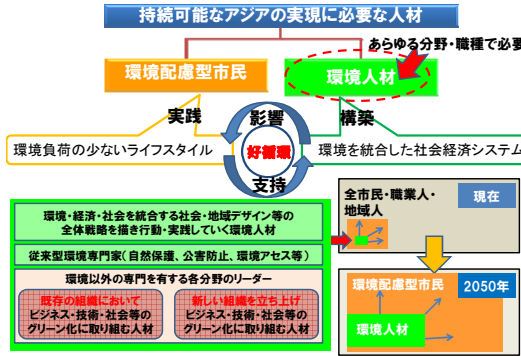
#### 持続可能な地球にはアジアの対応が欠かせない



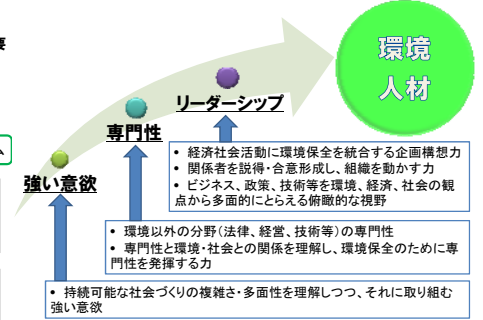
#### 【持続可能なアジアを実現するために求められる視点】

1. 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を希求する社会構造や産業構造のパラダイムシフト
2. 自然共生の思想等、多様かつ独自のアジアの伝統的な知見の活用と普及
3. あらゆる分野・産業で、長期的かつグローバルな視点での具体的な行動

#### 本ビジョンにおける人材育成のターゲット



#### 環境人材に求められる3大要素

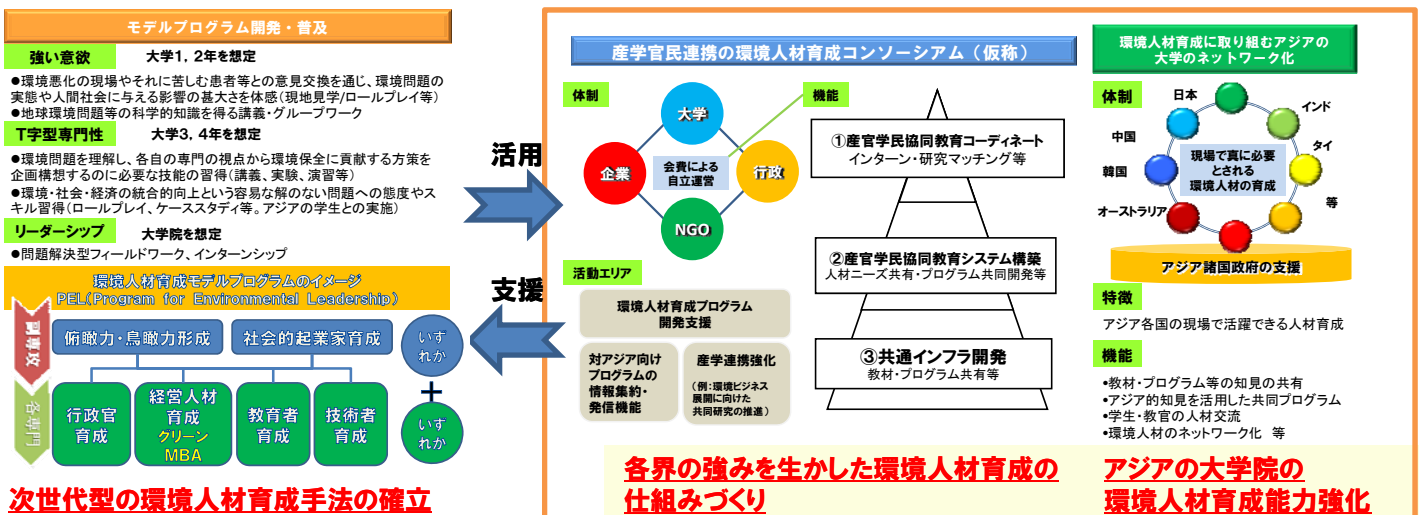


環境立国を人づくりから支えるため、日本のリーダーシップのもとアジア環境人材育成イニシアティブを強力に推進

## 2. アジアの環境人材育成・活用に向けた今後の方向性

望ましい方向性	<p><b>時期</b>：大学・大学院は3大要素を統合して学ぶことが可能</p>	<p><b>生涯を通じた能力開発</b></p> <p>環境人材は大学・大学院の期間で育成できるものではなく、生涯を通じたキャリア開発が重要</p>	<p><b>内容</b>：T字型の知識体系</p>	<p><b>手法・場所</b>：参加型、問題解決型、現場活用型</p>
	<p><b>現在の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●3大要素が個別に教育されており、統合的に教育されていない。</li> <li>●そのため、環境人材を体系的に育成する体制が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続的学習の場の不足</li> <li>●環境キャリア情報のミスマッチ</li> <li>●高度な専門性を持つ人材が先進国等に流出（頭脳流出）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●専門性と環境の統合のための教育が不足</li> <li>●企業等が環境人材に求める能力・スキルが不明確</li> <li>●アジアの生活・開発に貢献できる教育の不足</li> <li>●限られた資源（人材、予算）を優先付けられる俯瞰教育の不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特に赤で囲んだ部分の教育を強化すべき。</li> <li>●環境問題及びその解決の現場でのフィールドワークやインターン等の現場体験の不足</li> <li>●企業を含む社会の側のインターンやフィールドスタディ受け入れ体制の未整備</li> <li>●講義や演習以外のケーススタディ等の参加型学習、問題解決型学習の手法は開発途上であるほか、指導者が少ない</li> <li>●現場を知る外部講師や現場が必要となるが、マッチングのコストが大きい</li> </ul>

## 3. 産学官民の協働によるアジアの環境人材育成イニシアティブの展開 (ELIAS: Environmental Leadership Initiatives for Asian Sustainability)



次世代型の環境人材育成手法の確立

各界の強みを生かした環境人材育成の仕組みづくり

アジアの大学院の環境人材育成能力強化